

● 友好都市提携について

● 提携年月日 1981年(昭和56年)8月29日

● 提携の動機と経過

1972年(昭和47年)9月29日、日中共同声明が発表され日中国交回復が実現しました。

翌73年1月、明石市は中華人民共和国中日友好協会会長に文書で友好都市提携の申し入れを行い、5月には当時の衣笠哲明石市長が「地方自治友好訪中国」の一員として、中国を友好訪問しました。中国滞在中に日中間では初めての友好都市が神戸市と天津市との間で成立し、衣笠市長も新しい中国の躍進に感動するとともに、ぜひ明石市でも友好都市を結ぼうと帰国後、市議会をはじめ市内の各界や中国関係者に働きかけを行ってきました。

明石市と無錫市のつながりは、1977年(昭和52年)に「第一次明石市各界代表友好訪中国」が訪れて以来本格化しました。その後も市議会代表、教職員、市民などが相次いで訪中し、また児童作品展なども行われる中で、1980年(昭和55年)には両市市長の相互訪問が実現しました。そして1981年(昭和56年)、衣笠市長が訪中し、無錫市人民大会堂において無錫市・明石市友好都市締結調印式が執り行われ、8月29日、両市は友好都市となりました。

最初の申し入れから約8年半の年月を経て実現した無錫市との提携は、日本と中国との友好都市提携としては、全国で30番目、兵庫県下では神戸市・天津市に次いで2番目でした。



衣笠市長(右)が中国より帰国(1973年)



明石市各界代表友好訪中国壮行会(1977年)



無錫市から訪問団が来明(1980年)

●議定文

日本国明石市と中華人民共和国無錫市は日中平和友好条約の原則と精神に基づき、日中両国国民の友好協力関係を深く発展させるために、友好都市を結ぶことを決定する。

双方は正式に友好都市を結ぶことを新しい起点とし、日中両国国民の伝統的な友情とすでに行われている友好協力関係を基礎として、両市民間の友好往来を一層強化し、相互理解を深め、友情を増進させ、都市管理、科学技術、文化、医学、教育、体育等各分野において、多様な形式で、広範な交流と相互協力を進め、双方の経済、文化等の事業の発展を増進し、日中両国国民の世代にわたる友好に積極的な貢献をする。

本議定書は両市市長の調印の日から発効する。

本議定書はひとしく正文である日本語と中国語により各二通を作成した。



友好都市締結調印

友好都市締結議定書

日本国明石市と中華人民共和国無錫市との 友好都市締結議定書

日本国明石市と中華人民共和国無錫市は日中平和友好条約の原則と精神に基づき、日中両国国民の友好協力関係を深く発展させるために、友好都市を結ぶことを決定する。

双方は正式に友好都市を結ぶことを新しい起点とし、日中両国国民の伝統的な友情とすでに行われている友好協力関係を基礎として、両市民間の友好往来を一層強化し、相互理解を深め、友情を増進させ、都市管理、科学技術、文化、医学、教育、体育等各分野において、多様な形式で、広範な交流と相互協力を進め、双方の経済、文化等の事業の発展を増進し、日中両国国民の世代にわたる友好に積極的な貢献をする。

本議定書は両市市長の調印の日から発効する。

本議定書はひとしく正文である日本語と中国語により各二通を作成した。

1981年8月29日

明石市長

衣笠哲

無錫市長

马健

中华人民共和国无锡市和日本国明石市 缔结友好城市的议定书

中华人民共和国无锡市同日本国明石市根据中日和平友好条约的原则和精神，为了深入地发展中日两国人民的友好合作关系，决定缔结为友好城市。

双方以正式缔结为友好城市为新的起点，以中日两国人民之间的传统友谊和业已存在的友好合作关系为基础，进一步加强两市人民之间的友好往来，加深了解，增进友谊，并在城市管理、科学技术、文化、医学、教育、体育等各个方面，采取多种形式进行广泛的交流与合作，促进双方经济、文化等事业的发展，为中日两国人民世代友好作出积极的贡献。

本议定书自两市市长签字之日起生效。

本议定书用中文、日文书写，各一式两份，具有同等效力。

一九八一年八月二十九日

无锡市长

马健

明石市长

衣笠哲



中華人民共和国 江蘇省

無錫市 むしゃく [WUXI]



錫山より市の中心エリアを望む

無錫市の概要

(2016年12月 現在)



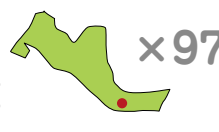
常住人口 約650.01万人
(戸籍人口 約486.2万人)

面積

約4,788km²



明石市の約9.7倍



×9.7



兵庫県の約半分

無錫市は江蘇省南東部にあり、上海市と南京市のほぼ中間に位置します。南に中国五大淡水湖のひとつである太湖を臨み、西に恵山をひかえた江南の名城と呼ばれる長江流域の美しい古都です。大阪から無錫までは、直行便を利用して約2時間で行くことができます。

無錫の歴史は古く、紀元前1244年（周代の初期）に呉の国の都がおかれました。当時、錫山で大量の錫が採れたことから「有錫」と呼ばれましたが、その後、錫が採れなくなったことから「無錫」と呼ばれるようになったという説があります。

白い帆船が湖面を行き交い旅情を誘う太湖、錫山と恵山にまたがる広大な錫恵公園、太湖の雄大な景色を楽しむことのできる鼋頭渚公園^{げんとうしよ}など、多くの景勝地に恵まれた無錫のまちは、一年を通じてたくさんの観光客で賑わっています。

気候がおだやかで、太湖の水産物など豊富な物産に恵まれたことから、古くから「魚米の里」として知られており、太湖で獲れる白エビ、白魚（鯉ぐらいの大きさの白身の魚）、銀魚（日本の「しらうお」のような白い小魚）は太湖三白と呼ばれ、無錫の名物となっています。また、名産品としては、恵山山麓から産出される良質の粘土で造られる「恵山泥人形」などが有名です。

無錫市の人口はこの50年で約1.9倍に増加しており、また現在、陸・水・空路による交通基盤整備が進み、交通・物流の要衝となっていることもあり、工業・経済面での発展がめざましく、2016年12月現在累積で100数か国約14,000社の外資系企業（うち日系企業1,200社余り）が進出し、中国の経済中心都市の一つとなっています。

■ 無錫市の位置



風景

錫恵公園 (しゃっけいこうえん)・恵山古鎮 (けいざんこちん)

錫山と恵山の二つの山にまたがる広大な公園。園内には南北朝時代に建立された恵山寺、唐代の茶聖陸羽が「天下第二の泉」と評した泉、明代に造営された名園・寄暢園などがあります。

恵山古鎮は錫恵公園の近くにあり、かつて800ヶ所以上の有名人家族の御霊屋が集中されているところで、現在重要な御霊屋60数箇所が修復され、民間伝統文化を味わえる民俗商店街があります。



靈山大仏 (れいざんだいぶつ)

古刹、仏像、古塔などがある観光景勝区・靈山景勝区にある高さ88mの青銅釈迦牟尼立仏像。そのほか、お釈迦様の誕生を描く「九竜灌浴」という大型音楽噴水ショー、仏教宮殿である梵宮、仏教の町である拈花湾も観光地として有名です。



蠡湖 (れいこ) と蠡園 (れいえん)

蠡湖は五里湖と呼ばれ、太湖から無錫市に伸びる内湖であり春秋時代の範蠡と中国古代四大美人の一人である西施の恋物語が残されています。蠡湖のほとりに蠡園があり、園内は築山が有名で、長い歴史と文化を持っている景勝地です。



南禅寺 (なんぜんじ)

1450年の歴史がある南朝四百八十寺の一つで、現在はお寺を中心に、賑やかな商店街エリアです。



太湖 (たいこ)

中国五大淡水湖のひとつ。東西60km、南北45km、湖の面積は、2,450km²と琵琶湖の3倍以上もあります。湖中には48の小島があり、湖に面した山や半島とともに72峰とよばれ、美しい景色を形づくっています。



古運河 (こうんが)

隋の煬帝が開いた大運河（北京－杭州）が市内を貫流し、現在でも交通の大動脈として船舶がしきりに行き交い、活気にあふれています。運河の両側には白壁に黒屋根の民家が並び、情緒豊かな清名橋をはじめ水郷らしい景観が多くの観光客を集めています。



新呉区 (しんごく) の住宅エリア



名品

恵山泥人形 (けいざんどろにんぎょう)

無錫市にある恵山の麓でとれるきめ細やかで滑らかな泥から、窯で焼かずに陰干して作られる人形。400年以上の歴史があり、大阿福（無錫特有の縁起物）や劇・歴史上の人物をかたどったもの等が有名です。



美味

油面筋 (ヨウメンジン)

麩を揚げたもの。肉を詰めて一品料理としたり、ご飯の添え物やスープなどにも使われます。無錫のお土産としても有名です。



無錫排骨 (むしゃくパイグー)

骨付きの豚ばら肉を甘辛く煮込んだスペアリブで、お年寄りから若者まで人気がある無錫の伝統料理です。

